

【B年】

降臨節第一主日

全能の神よ、み子イエス・キリストはわたしたちを顧み、謙遜なみ姿でこの世に來られました。どうか今、闇の業を捨てて、光のよろいを着る恵みを与え、終わりの日に生きていく人と死んだ人を審くために栄光をもって再び來られる時、永遠の命によみがえらせてください、父と聖霊とともに一体であつて世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによつてお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第六三章十九節から」

19 どうか、天を裂いて降つてください。

御前に山々が揺れ動くように。

1 柴が火に燃えれば、湯が煮えたつように

あなたの御名が敵に示されれば
国々は御前に震える。

2 期待もしなかつた恐るべき業と共に降られれば
あなたの御前に山々は揺れ動く。

3 あなたを待つ者に計らつてくださる方は
神よ、あなたのほかにはありません。

昔から、ほかに聞いた者も耳にした者も
目に見た者もありません。

4 喜んで正しいことを行い
あなたの道に従つて、あなたを心に留める者を
あなたは迎えてくださいます。

あなたは憤られました
わたしたちが罪を犯したからです。

しかし、あなたの御業によつて
わたしたちはとこしえに救われます。

5 わたしたちは皆、汚れた者となり
正しい業もすべて汚れた着物のようになった。
わたしたちは皆、枯れ葉のようになり

わたしたちの悪は風のように
わたしたちを運び去った。

6 あなたの御名を呼ぶ者はなくなり
奮い立つてあなたにすがろうとする者もない。

あなたはわたしたちから御顔を隠し
わたしたちの悪のゆえに、力を奪われた。

7 しかし、主よ、あなたは我らの父。

わたしたちは粘土、あなたは陶工
わたしたちは皆、あなたの御手の業。
8 どうか主が、激しく怒られることなく
いつまでも悪に心を留められることなく
あなたの民であるわたしたちすべてに
目を留めてくださるよう。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第八〇編 一〜七節

- 1 イスラエルの牧者よ、ヨセフを羊の群れのように導く
方よ、耳を傾けてください＝ケルビムの上に座して
おられる方よ、光を放ってください
- 2 エフライム、ベニヤミン、マナセの前に力を現し＝
わたしたちを救うために来てください
- 3 神よ、わたしたちを新たにし＝み顔の光を照らし、
救ってください
- 4 万軍の神、主よ＝民の祈りに向かっていつまで怒りを
燃やされるのか

- 5 あなたは涙のパンをわたしたちに食べさせ＝溢れる
涙を飲み物とされた
- 6 わたしたちは隣り人の争いの種にされ＝敵はわたし
たちをあざ笑う
- 7 万軍の神よ、わたしたちを新たにし＝み顔の光を照
らし、救ってください

使徒書

朗読者 「使徒書はコリントの信徒への手紙 I 第一章 一節

から」

- 1 神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒と
なったパウロと、兄弟ソステネから、2 コリントにある神の
教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス・
キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリス
ト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる
者とされた人々へ。イエス・キリストは、この人たちとわた
したちの主であります。3 わたしたちの父である神と主イエ
ス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。
4 わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の
恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝してい
ます。5 あなたがたはキリストに結ばれ、あらゆる言葉、あ
らゆる知識において、すべての点で豊かにされています。6

こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、7その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。8主も最後まであなたがたをしっかりと支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしていただきます。9神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マルコによる福音書第十三章二三節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

33気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいっなのか、あなたがたには分らないからである。34それは、ちようど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。35だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分らないからである。36主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。37あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」